

第 7 回審議会意見等の分野別整理

1 基本計画・施策連動型の仕組みの検討

要点	意見要旨
基本計画について	基本計画の基本方向と基本施策は以前の計画よりわかりやすくなった。第5次計画では柱が5本であったので、無理に施策をグルーピングしているという印象が違和感としてあった。10本の柱に基本計画を整理したことによって、それぞれの柱で何をしようとしているか、例えば第1章では、緊急の課題である防災を中心にまとめられているなど、市が何を取り組んでいくのかが明確になった。
	最終的に評価につながる部分もあるが、指標化できれば目標が明確になり、市の取り組みの連携や市民の協働がしやすくなる。
	目標人口が138,000人、基本計画に沿った施策を進めれば、目標人口を達成できるのか心配である。
	厚生労働省の推計によると、日本の総人口が1億2千万人から将来には8千万人になると見込まれる中、青梅が人口を確保していくのは、大変な努力が必要である。
	将来の生産年齢人口を確保するためには、他からの転入者を確保しないとイケない訳だが、せめて市内での出生、市内への転入が増えるようにしていかないと青梅市の基礎的な体力を維持できない。
	モノをつくっていくこと、何かに取り組むことはお金がかかると思っていたが、それよりも市民の意向や方向は一致していない中で、市としてまとめていくのが大変ではと思う。第6次計画には、市民との協働などお金をかけること以外の部分が多く、達成が大変なのではと思う。
	だんだん計画の形が見えてきたが、各部署と連携して計画は策定するだけではなく実施が大切なのは、優先度もあるが、策定した計画をスムーズに実行していくのが重要である。
	長期総合計画は非常に多くの項目があるが、すべて実現すれば、すばらしいまちになると思う。実現に向けて、欲張らずに取り組むことが大切だと思う。
	まちづくり基本方向の10本の柱があるが、基本計画でいうと第1章～第8章がまちづくりの方向、第9章と第10章がそれを支えるものとして、市民と協働して、市として健全な財政を維持し、推進力としていく姿に思える。第9章と第10章のあり方として、「施策連動型の仕組みづくり」が考えられると思う。この「施策連動型の仕組みづくり」は、絵として描いただけではそれで終わってしまうし、この仕組みが一般の市民の方が聞いて理解できるかどうか、心配なところがある。今後のまちづくりはこういった思想で、これからのまちづくりに取り組んでいくという理念を計画の中に、盛り込んでもらいたい。その上で、1つのプロジェクトとして、第9章と第10章を踏まえて、「連動型の仕組み

要点	意見要旨
	<p>づくり」を計画の中で述べていく。縦割りで連動しない部分が少しでも解消できるように。</p> <p>基本計画骨子は、基本方針・基本施策がきれいにまとまりすぎて、夢も希望も読み取れない。施策はそれぞれが連携・連動していると思うので、それらを整理してもらい、背景としては「施策連動型の仕組みづくり」の大分類を、計画を作る時の一つの評価軸として進めてもらいたい。</p> <p>基本計画は全部で 10 項目の柱があり、市役所の部署に連動して、仕事が回ると思う。その一方で、施策の組み合わせは考えていないのか。</p> <p>例えば、第 8 章の基盤で、道路、公共交通、景観はあるが、最近の動向では、市民参画のもとに進めることが多い。第 1 章の防災では、自主防災組織が重要だが、情報発信の部分でのコミュニティ FM の活用など情報通信技術が役に立っているなど、施策を掛けあわせた体制整備が重要ではないか。それぞれの項目が独立したのではなく、施策を掛け合わせたものが重要であり、そういったモデル事業が必要ではと思う。</p>
<p>施策連動型の仕組みづくりについて</p>	<p>役所にある他のセクションと連携するのは難しいと思うが、様々なセクションが連動する考え方は大切だと思う。</p> <p>分野横断的に連携・連動して取り組むとなると、1つの部署では対応できないし、市民の参画も必要になる。従前の仕事のやり方では難しいところもある。こうした取り組みを同時にやろうとすると大変なことになる気がする。そのため最初の 2～3 年ではモデルプロジェクトとして、「施策連動の仕組みづくり」とともに青梅らしい仕事の進め方を開発していく必要がある。</p> <p>こういうパッケージで施策を取り組む場合には、指針として「何かを生み出す」とい視点を持ってほしい。例えば、市民にとってプラスになること、「お金」、「心の豊かさ」といった、何かを生み出すといったことを考え、様々な施策を組み合わせ一つ目標を定めてほしい。逆に、何かを生み出さないものは、方向転換が必要ではないか。</p> <p>「施策連動型の仕組みづくり」の長期総合計画での位置づけはどうなっているのか。何らかの形で位置づけることは意義がある。また、公表するのはよいが、どういう形で実施していくかが課題ではないか。</p> <p>「施策連動型の仕組みづくり」で何に取り組むかを明確にすることは、大きな進歩だと思う。しかし、いつやるのか、だれがやるのかといった問題がある。</p> <p>「施策連動型の仕組みづくり」については危惧をしている部分がある。個々の施策が連動して実行されるのは望ましいが、現実的には、部・課ごとに施策体系に基づいて事業を実施している。縦割りに横串を差して行うことになるが、現実的には難しいのでは。</p> <p>基本構想と基本計画をつなぐ手法として、「施策連動型の仕組みづくり」があり、具体例として、仕組みを作ってアプローチする方法もあるし、アウトソーシング、もっと民間企業を活用する手法がある、ICTとかもそうだが、構想・</p>

要点	意見要旨
	計画の実現に向け、構想と計画を結ぶものはこれだけでない、民間企業・民間人の活用が必要だと思う。
	市内には活用されていない資産がある。その活用が必要であり、活用のためのパッケージができればと思う。
	「施策連動型の仕組みづくり」を実践していくには、選挙時の公約のようにあれもこれもとらないよう。今後、具体的なチャレンジ計画などとして実行していくのか。
	「子育て世代が住みたい青梅」の中に「小・中一貫教育」とある、その上には「地域の文化や歴史を取り組んだプログラム」がある。ここに目標を設定し、肉付けしていくともっと具体的になるのでは。
	「施策連動型の仕組みづくり」にある3つの柱のうち、「何度も遊びに来たくなる青梅」があるが、こうした取り組みで来訪者が転入者になってくれるとよいと思う。また、「子育て世代が住みたい青梅」も重要だと思う。そのためには市民誰もが施策に参加して、気概を持ってやってもらうことも大切ではないか。
	「施策連動型の仕組み」というのは、今回の総合長期計画の中で、何らかの形で盛り込んでいってほしい。盛り込みにくい部分があるとすれば、審議会としての提言といった形で付録としてでも出すことを検討してほしい。

2 分野別事項

(1) 自然・安全安心・生活・環境

要点	意見要旨
防災拠点の整備	防災に関しては、学校施設など広い敷地があるところを防災拠点と位置づけ、その他医療施設などにリノベーションのタイミングで備蓄などの防災拠点機能の強化を図っていくことが大切では。
消防団員の確保	基本計画の消防の基本施策に、「消防団の団員の確保」とあるが、すでに課題があって、原因が分かっているのに対策ができていないところを洗い出しながら取り組んでいく必要がある。
モデル地区の設定と分野横断的なまちづくり検討	計画人口が 138,000 人、推計人口は 134,000 人ということで、10 年後を見越せばこういう目標になるが、その先をみると人口は減少していくため集約型の都市構造に導いていかざるを得ない。そのためにプロジェクトのモデル地区に「青梅宿」を設定してはどうか。「青梅宿」は、歴史・文化もある、商店街もある、健康医療福祉での高齢者が街を歩ける、来訪者を呼び込むなど、施策が連鎖していくためには「青梅宿」がふさわしいと考える。施設の空きが出るとすれば、小・中一貫の実施や施設のリノベーションなど考えられる。また、プロジェクトを進める場合には、分野横断的なので、様々な分野の専門家を入れた、フォーラムというかまちづくり協議会を設置してはどうか。分野が多岐にわたるので、土木の専門家だけではなく、医師やITの専門

	家、ケースワーカーなど、健康医療福祉の専門家などもたくさん入れて、地域の人も入れたラウンドテーブルで検討することが必要では。
集約型のまちづくり	交通は人が交流する基盤の部分であり、集約型で、コンパクトに暮らすことが交通の経営コストを下げ、持続性が高くなる。市の東側では1家4人で1台の車で移動するライフスタイルもある。しかし、高齢化が進むと、ある程度徒歩圏で暮らせ、文化・歴史に触れ、買い物も収まる空間を確保する必要がある。市域の広さを考えると、買い物難民のような存在が出てくる可能性があり、その対応が求められる。集約型のまちづくりを掲げ、移動が可能な方は自然が豊かなところで暮らしていただいてもかまわないが、そうでない方は段階的に移り住んでいただく、そのための基盤は、連動型の仕組みで作っていく、そういった方針が明確に長期総合計画で見えるようにしてはどうか。

(2) 教育・文化・スポーツ・交流

要点	意見要旨
教職員に関する施策の表現	基本計画骨子で、学校教育のところ「教職員の資質向上」とあるが、資質はあると思うが、教職員の生産性ということが大切なのではと思う。「教職員の資質向上」という表現でよいものなのか検討してほしい。
特色ある教育の推進	【再掲】 「子育て世代が住みたい青梅」の中に「小・中一貫教育」とある、その上には「地域の文化や歴史を取り組んだプログラム」がある。ここに目標を設定し、肉付けしていくともっと具体的になるのでは。

(3) 福祉・子ども・健康・社会保障

要点	意見要旨
子どもの居場所づくりについて	子どもの居場所づくりについて、市民コミュニティホールに異世代交流の出来る子ども達の居場所拠点「子どもステーション(仮称)」を併設してほしい。 設計段階から、ハード・ソフトの両面において、子ども達の意見が反映できる取り組みを行えば、よりよい子どもの居場所ができると思う。 子どもステーション(仮称)を軸に、各市民センターや自治会館などの既存の建物の一室を利用して地域の子どもの達が気軽に自由に遊び学べる「子どもサロン」を設置してほしい。 現在、市内6小学校で実施されている「放課後子ども教室」を市内全小学校に設置してほしい。小学校の空き教室やコーディネーター等の人材確保等の問題点もあるが、開催校では好評である。
子どもへの暴力防止と人権	子ども達への暴力防止と人権教育について、中学生のいじめ問題がクローズアップされているが、暴力を防止するためには、人間が人間として尊厳を

要点	意見要旨
教育	持っていることを人権教育として学校で学ぶことが必要である。現在、小学校では、セーフティー教室などで暴力から身を守る事を学んでいるが、それに加えて、基本的人権を幹にした、被害者も加害者も傍観者もつからない「CAP子どもワークショップ」とともに、地域のつながりの大切さ、大人が子ども達の危機を察知し、子ども達の安心・安全を守ることが出来るかを学ぶ「CAP大人ワークショップ」など、子どもと大人があらゆる暴力や虐待について基本的人権をベースにした共通認識を持ち暴力防止が出来るCAPワークショップの小学校での実施が必要だと思う。
生活保護の現状	生活保護の現状というようなことを色々と聞くが、生活保護費が圧迫しているということを知っている。

(4) 産業・都市基盤・観光・雇用

要点	意見要旨
農業振興に向けた取り組み	農業振興計画ができて6年たつが、計画をつくって満足しているところもある。担い手不足、後継者不足はずいぶん前からの課題であり、農地の減少、農作物の減少など現状がある。そのためにはもうかる農業でなければいけないということがある。
民間と協力した産業振興	他の市の例だが、宮崎県日南市では特産であった林業の振興のため飼肥(おび)杉課を立ち上げた。そこに市役所の職員だけではなく民間のデザイナーを入れ、家具メーカーと連携して製品開発、産業化を図った。 施策連動の仕組みを上手く回すためには、市役所の職員だけではなくまとめ役が必要だと思う。どういう人材がいるのかを発掘し、「施策連動型の仕組みづくり」のイメージにある梅の花ごとにまとめ役が必要であり、年間の予算化から、商工分野とのタイアップ、観光分野とのタイアップ、メーカーとのタイアップなどコーディネートする人が重要だと思う。
青梅駅周辺の活性化	現在、青梅駅周辺の中心市街地活性化が位置づけられている。街には多様な要素があり、100 ぐらいの地層からできてり、様々な連携のもと、活性化協議会を立ち上げて、そこを起点にまちづくり会社を運営していく。青梅駅前の狭い街区から、雇用を確保し、青梅の魅力を情報発信し、子育てしやすいまち、高齢者が暮らしやすいまちづくりに向け、中心市街地活性化を使って対応できないか。市に協力してもらいながら、こうした計画が絵に描いた餅にならないよう、民間としては頑張ろうという意識はある。
観光資源の活用	御岳山は国際的な観光資源になりうると思っているが、青梅市はあまり投資していないと感じる。欧州の山岳都市・山岳観光などを含めてみた時にも、日本独自の景観やインフラの投資をしても何十年経っても生き延びるので、積極的に捉えてもいいのでは。 ----- 青梅市は御岳山も含め多くの観光資源に恵まれているのにあまり観光に力

要点	意見要旨
	を入れていない。

(5) 協働・コミュニティ・行政運営

要点	意見要旨
情報の推進・活用への戦略的意識	<p>第5次計画に比べ、ITインフラの整備、ハードからソフトの方向に文言の内容に移ったところは評価したい。さらに、情報の推進・活用についてもう一步踏み込んでほしい。情報は伝わることで価値がでるが、情報を伝える部分より技術的な部分の表現が強い。例えば、個別に訪問するといったアナログ的な情報を伝えていく部分も含めて明確化していくといい。</p> <p>情報通信基盤の整備、効率的なシステム、電子化を進めるというのは重要だが、情報発信では伝えることで価値がでる。</p> <p>基本計画での個人情報の保護に関して、法律で難しいところもあるが、今後、個人情報が活用される時代になる。近所でひとり暮らしをしている高齢者を助けたいという思いを持った人もいる。アナログ的な情報流通・活用についても戦略的な意識をもってほしい。</p>
暖かみを残した情報発信	<p>バーチャルな通信手段が発達すると、顔を見ながらの情報を伝え合うということが希薄になる。今の時代は、パソコンなど機器を使った情報伝達も重要だが、基本はフェイストゥフェイスの情報を伝え合うことも必要だと思う。機械を使った情報伝達は効率的だが、コミュニティでの情報伝達など暖かみを残した情報発信をしてほしい。</p>
開かれた議会に向けて	<p>基本計画で青梅市議会のことに触れていない。市民の税金で運営されている議会の改善点もあるのでは。一般質問や予算など、土日に議会を開催し、市民が参加しやすい議会にできないか。そういった改善も市民サービスであり、開かれた議会にならない。</p>
活用されていない資源の活用	<p>前回の会議で土地利用の話があったが、学校の空き教室など放置しておけば何も生み出さない、耕作放棄地なども無駄になってしまう、そういった活用を市民も交えて検討できればと思う。</p> <p>今、住んでいる地域には、計画されてから50年たっても整備されない道路がある。そういう道路は今後必要なのか、地域の人にとっても整備されてもあまりプラスの要素がないのでは。例えば、道路整備に向けて用地買収された土地に太陽光パネルを設置して発電してはどうか。多層構造で整備して上を太陽光パネルに、下をフラワーベルトやグリーンベルトとして整備するなど。そうすれば、憩いの場ができたり、雇用の場ができたり、野菜を作るプラントを作るなど、何かを生み出すことができるのでは。</p> <p>【再掲】 市内には活用されていない資産がある。その活用が必要であり、活用のためのパッケージができればと思う。</p>

要点	意見要旨
計画の進行管理	<p>現行の基本計画でも「チャレンジプログラム」として個別事業を組み合わせる取り組みが位置づけられているが、そういう形で推進されたのか、庁内で推進体制を立ち上げて、進行管理を行ったのか疑問がある。</p>
施策の選択	<p>土地利用の方針の図があるが、今後、計画でいうと第6次、第7次、第8次では人口減少の局面になる。次の10年にも継続していけるものには、市は積極的に投資すべきだが、それ以外の部分は撤退していくのかという決断も必要だと思う。</p>
民間活力の活用	<p>計画の推進は大変なことだと思うので、そのために民間活力の活用を図ってほしい。</p> <hr/> <p>【再掲】 基本構想と基本計画をつなぐ手法として、「施策連動型の仕組みづくり」があり、具体例として、仕組みを作ってアプローチする方法もあるし、アウトソーシング、もっと民間企業を活用する手法がある、ICTとかもそうだが、構想・計画の実現に向け、構想と計画を結ぶものはこれだけでない、民間企業・民間人の活用が必要だと思う。</p>